

## 令和2年2月 報道機関との定例懇談会 要旨

### □ 情報提供項目

市民生涯学習の集い・市民大会、「カケハシ・プロジェクト」日系人青少年招へい事業、地方創生に関する相互連携協定について市長が説明したほか、2月の行事予定、イベント情報などについて報道機関にお知らせしました。

### □ 記者との質疑応答

記者：市長が恐竜の関係で福井県に視察に行ったようだが、視察の所感、今後の久慈の取り組み、アイデアなど伺いたい。

市：国内では唯一、恐竜の県立博物館は福井にある。久慈市からティラノサウルス類の歯の化石が発掘されたところだが、県立博物館の建設は県北振興のうえからもインパクトがあるものになる。

福井の恐竜博物館は、レプリカ含め世界中から集めた展示がものすごい規模のものだった。展示の見せ方もよく出来ていて、学習する機会にもなるものだった。博物館は建設から20年が経っている。現在の来館者は、年間94、95万人あるそうだが、年間140万人の来館者を目指して、大規模なリニューアルの計画がある。博物館の周りは勝山市が建設・管理する大規模な公園になっている。久慈市もやるべきことがあると感じた。

県立博物館は福井市にある。県立博物館に恐竜を展示したいという話が出て、県教委の所管だったところを観光も意識して取り組むということで首長部局に所管が移ったようだ。同じスタンスでやっていかなければならない。

県立の博物館は盛岡市にあるが、久慈に恐竜、琥珀を展示して県北振興のうえからも集客につなげたい。

来年度当初予算には、発掘の支援も含め、ティラノサウルスに関係する予算・事業を組み込んでいきたい。

県北広域振興局にも一緒に取り組みたいと伝えている。

福井県勝山市は人口2万3千人で県境の町で利便性が決して良い地域ではない。

久慈もティラノサウルスで観光に取り組めば、安定的に集客が見込めるのではないかと考えている。

記者：2050年までにゼロカーボンを目指すということだが、長期的なスパンでの取り組みについて教えてください。

市：具体的なタイムスケジュールはこれからになるが、逆算方式で検討していく。

東芝インフラシステムズ(株)は市内企業のバイオマスプラントの設計監理を行っている。また、久慈市全体の再生可能エネルギーの利活用にアドバイスをいただいている企業であり、これまでの関係があり、地方創生に関する連携協定を結ぶに至った。

積水化学工業のごみからエタノールを抽出するプラントの誘致を進めている。実現すれば、ごみが資源化されるので期待をしている。実証は5年のようだが、その後のごみ処理にも役立つ。4月からごみ袋有料化が本格導入されるが、市民に地球環境を守る意識をもってほしい。

記者：COP25の日本の姿勢はどのように見えているか。

市：経済優先ではなく、諸外国と歩調を合わせて最優先で取り組むべき。

2月18日に北岩手循環共生圏結成式を行うが、県内9市町村が一緒になって取り組んでいきたい。

記者：新年度の一般会計予算について全体の規模を教えてください。

市：今年度は、台風被害のため補正を組んだこともあり、250億円ほどになった。

来年度の当初一般会計予算は210億円程度になる。財政状況は厳しいが、優先順位を付けながらやっていきたい。

内水の強制排水対策は、台風被害が大型化していることもあり、3カ所同時並行で進めていきたい。防災対策はスピードを上げて取り組む。